

令和7年12月19日

文化審議会の答申（史跡名勝天然記念物の指定等）

文化審議会（会長 ^{しまたに} 島谷 ^{ひろゆき} 弘幸）は、令和7年12月19日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、特別史跡の新指定1件、史跡名勝天然記念物の新指定8件・追加指定等27件、登録記念物の新登録6件及び重要文化的景観の新選定1件・追加選定1件について、文部科学大臣に答申しました。今回答申された史跡等の指定等の詳細は、別紙のとおりです。

この結果、官報告示を経て、史跡名勝天然記念物は3,398件、登録記念物は149件、重要文化的景観は74件となる予定です。

<担当> 文化庁文化財第二課

課長	田中 禎彦
課長補佐	上田 和輝
主任文化財調査官（史跡部門）	渋谷 啓一（内線9767）
主任文化財調査官（名勝部門）	平澤 毅（内線9776）
主任文化財調査官（天然記念物部門）	江戸 謙顕（内線9778）
主任文化財調査官（埋蔵文化財部門）	近江 俊秀（内線9766）
主任文化財調査官（文化的景観部門）	市原 富士夫（内線9770）
審議会係長	今村 結記（内線9757）
電話：075-451-4111（代表）	

今回答申される本町関係の文化財の所在地等

国指定史跡の新指定

おきのえらぶじまこぼぐん
沖永良部島古墓群

よのぬしはか
世之主の墓（和泊町）

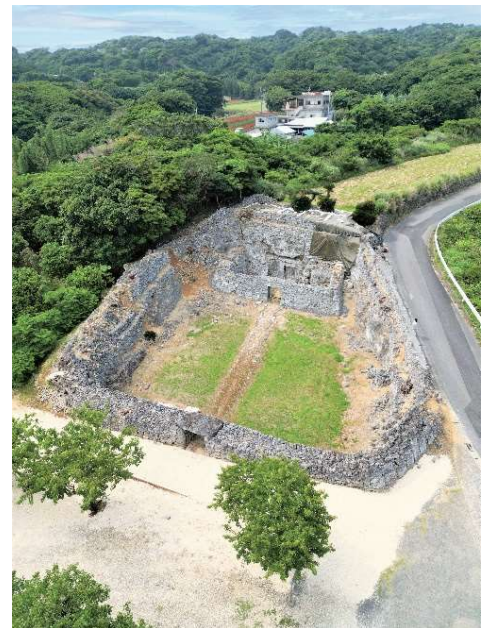
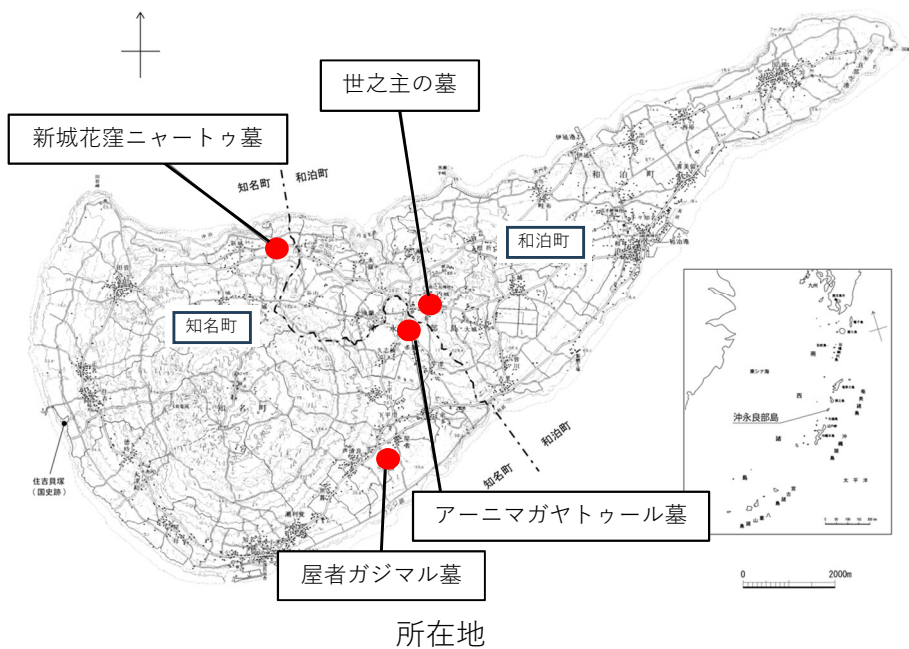
しんじょうはなくぼ
新城花窪ニャートゥ墓（知名町）

やじやばか
屋者ガジマル墓（知名町）

アーニマガヤトゥール墓（知名町）

【所在地】 大島郡和泊町・知名町

奄美群島に見られる、岩壁を横方向に掘り込む形式の遺骨を納める墓所のうち、琉球王国の影響を受け、削り出した岩壁や石積みの壁を設けた前庭を持つ大型石造り掘り込み墓。奄美と沖縄、さらに九州南部等との文化交流を示す貴重な遺跡として重要。



世之主の墓



新城花窪ニャートゥ墓



屋者ガジマル墓



アーニマガヤトゥール墓

写真提供：和泊町（世之主の墓）

知名町（新城花窪ニャートゥ墓・屋者ガジマル墓・アーニマガヤトゥール墓）

「琉球王国の影響を受けていた沖永良部島に見られる、^{まえにわ}前庭を持つ大型石造り掘込墓」

^{おきのえらぶじま こ ぼぐん}沖永良部島古墓群【^{おおしまぐんわどまりちよう}鹿児島県大島郡和泊町・^{ちなちよう}知名町】

^{よ の めし はか}世之主の墓

^{しんじょうはなくぼ}新城花窪ニヤートウ墓

^{やじや}屋者ガジマル墓

^{あまみ}アーニマガヤトゥール墓

奄美群島に見られる、岩壁を横方向に掘り込む形式の遺骨を納める墓所のうち、^{りゅうきゅうおうこく}琉球王国の影響を受け、削り出した岩壁や石積みの壁を設けた前庭を持つ大型石造り掘込墓。奄美と沖縄、さらに九州南部等との文化交流を示す貴重な遺跡として重要。



世之主の墓 提供：和泊町



屋者ガジマル墓 提供：知名町

^{あまみ}奄美・^{ふうそう}沖縄地域では、亡くなった死者を風葬し、その後に骨を洗い、その骨を^{かいそう}改葬する墓所を造るという葬制や墓制が営まれてきた。遺骨を納める墓所は、^{いわかげ どうけつ}岩陰や洞穴を利用し、さらに岩壁を横方向に掘り込んで造られたが、こうした近世以前に造られた古墓は沖永良部島全域では現時点で110基が確認されている。

このような遺骨を納める墓所は奄美群島で多く見られるが、沖永良部島では^{りゅうきゅう}琉球王国の影響を受け、削り出した岩壁や石積みの壁で囲まれた^{まえにわ}前庭を持ち、墓本体の上部に屋根構造を持つ大型石造り掘込墓が造られた。島内の大規模な古墓は、細部の意匠は異なるが、屋根や庭等の構造を共通にしている。島内最大規模の古墓は世之主の墓と呼ばれ、2重の前庭を持ち、墓口まで琉球石灰岩による参道を設けている。また鹿児島藩から派遣された代官が造営した伝承を持つ新城花窪ニヤートウ墓にも2重の前庭が築かれている。切妻形式の屋根や棟や軒を表現する屋者ガジマル墓や、墓本体に^{から は ふ}唐破風に似たレリーフや窓形を彫り込み、沖縄の近世墓と類似の構造を持つアーニマガヤトゥール墓も、前庭を持ち、屋根構造を表現する共通点を持つ。

このように4基の古墓は、奄美と沖縄、さらに九州南部等との文化交流を示す貴重な遺跡として重要である。